

令和6年度 事業計画の実施状況

(1) 教 育 面

教育目標

建学の精神「礼節を尊び、地域に貢献できる有為な人材の育成」に基づき、校訓「至誠・創造」の趣旨を体して、心身ともに健全で心豊かな人間を育成するとともに、使命感と正しい判断力を持つ意欲旺盛な人間の育成に努める。

1. 学力向上のための取り組み

- (1) 各コースの趣旨に沿った教育課程を編成し、特色ある教育活動を工夫・実践する。
- (2) ICT機器を効果的に活用し、分かる授業、やる気が起きる授業の展開に努めると共に、個に応じた学習指導の充実により学力向上を図る。
- (3) 各学年・教科毎に必要な家庭学習時間を設定し、学習と部活動の両立を基本においた教育活動の定着を図る。

◇ 今年度の重点 ◇

- ア. 家庭学習の習慣の確立（30分未満を減少させる→「生活の記録」の活用）
- イ. 朝の読書を始めとする読書への啓発活動（統一指導）
- ウ. 「特進コース研修会」で、3年間の統一した指導、教員の授業力の向上について検討する
- エ. 中学部を開校したことのメリットについて、総括する

ア. 家庭学習の習慣化

- 「生活の記録」の活用は特進コースで定着しつつあるが、総合コースでは途中で中断。学級担任の確認作業に負担が大きいとの声がある。
- 特進コースでは概ね30分以上の家庭学習が定着しているが、総合コースでは習慣化が難しい状況。
- 家庭学習内容の具体的な提示を継続して行う必要がある。
- 学級人数の縮小による担任の負担軽減も検討課題である。

イ. 朝読書の推進

- 朝の読書時間に他の活動をする生徒は減少している。
- 一部の教員からは読書以外の活動も認めてはどうかとの意見があり、朝読書の意義と効果について教員間で共通理解を図ることが必要。
- 教師自身が朝読書の推進姿勢を示すことが重要である。

ウ. 特進コースの指導と評価

○現行の特進コースの指導は、生徒・保護者・教職員から高く評価されている。

○コース改革については、説明会や広報活動により中学校側にも一定の理解が得られている。

エ. 中学部開校の効果

○中学部には、公立中学校での実績を持つ教員を配置し、より丁寧な指導が可能に。教員の意識改革にもつながった。

○少人数編成により、生徒一人ひとりに活躍の場が増え、自己肯定感の向上に寄与している。

2. 進路実現支援のための取り組み

- (1) 主体的に進路を選択する能力の育成、望ましい職業観・勤労観の形成等を図るため、3年間を通じた計画的なキャリア教育を実践する。
- (2) 大学、企業等の情報収集を充実させ、生徒への情報提供を一層推進する。
- (3) 就職については、内定率100%を目指す。
- (4) 進学については、国公立大学、私立大学、専門学校など、第1志望への合格を目指す。
- (5) 高大連携プログラムのさらなる活用

◇ 今年度の重点 ◇

ア. 国公立大学合格者Ⅰ類20名・Ⅱ類10名・総合5名の計35名を目指す。

イ. 学力分析会、進路検討会のさらなる充実

ウ. 企業見学を充実させ、職業や職場への理解を深め自分の目で応募先を選ぶ取り組みを通して、就職内定率100%の継続する

エ. 連携校による出前授業だけでなく、大学での問題解決プログラムなどに生徒を積極的に参加させる

【国公立大学】

名古屋① 横浜国立① 横浜国立① 岐阜薬① 静大② 静岡県立④ 静岡文芸②
都留文① 諏訪東京理科① 茨城① 埼玉① 山口① 長野① 福井県立①
千葉県立保健医療①

【私立大学】

明治② 立教④ 中央① 芝浦工業① 日大④ 東洋④ 専修③ 東京女子①
東京電機② 東北医科歯科① 帝京⑥ 帝京平成① 北里① 杏林① 大東文化①
創価大学① 日体大① 大妻女子① 愛知学院① 愛知① 愛知工業① 淑徳①
城西① 関西外語② 二松学舎① 国際医療福祉② 常葉大学 63 神奈川⑧
神奈川工科① 関東学院① 東海大学⑥ 静岡理工科③ 静岡産業⑤ 帝京科学①
静岡英和⑨ 武蔵野① 静岡福祉② 順天堂③ 藤田医科① 東京工科① 立正①
鶴見② 昭和音大② 鎌倉女子① 拓殖① 国士館② 東都② 就実①

名古屋経済① 皇學館① 神戸松陰① 京都医療科学① 千葉工業① 日本福祉①
浜松学院① 東京福祉① 中央学院① 国際武道① 尚絅① 千葉商科①
日本国際医療① つくば国際① 金沢工業① 高崎健康福祉① 女子美術①
金城学院① 神戸学院①

【短期大学】

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部① 静岡県立大学短期大学部②
小田原短期大学② 常葉大学短期大学部③ 静岡英和学院大学短期大学部①
日本大学短期大学部②

【専門学校】

富士市立看護③ するが看護⑤ 御殿場看護② 富士リハビリテーション③
中央医療健康① 東海医療学園① 川崎リハビリテーション①
ルネサンスペットアカデミー② 沼津情報ビジネス④ 静岡県美容②
静岡デザイン⑩ 大原公務員医療観光④ 中央調理製菓④ 中央動物総合⑨
中央歯科衛生士調理製菓① ノアデザインカレッジ① 東京俳優・映画&放送①
ESP エンターテインメント東京① 横浜リゾート&スポーツ① 淡海書道文化①
東京メディカルスポーツ① 山野美容① 東京アニメ・声優① 東京電子①
横浜ビューティーアート① 静岡工科自動車② 大原介護福祉① 横浜動物①
静岡産業技術② 東京 CPA 会計学院① 国際ペットビジネス①
静岡インターN・エア・リゾート① 代々木アニメーション学院①
静岡医療秘書学院① ミューズモード音楽院① 川口調理師① 日本外国語①

【就 職】

静岡県警察① 日本郵便② 三生医薬⑥ ジャトコ④ ニッピ④
パイオラックス③ アイエイアイ③ ユニプレス② コバヤシ② 日医工②
東海カプセル② 田子の月② テルモ① 日本ストロー① TENTOK① マルス①
ユニプレス精密① ケンコーマヨネーズ① パーパス① リョービ①
ニチフリ食品① アサヒ飲料① 東洋カプセル① グリーンカプス①
アリメント工業① 三協① イデシギョー① 日本ケイテム① SUNAGA①
イハラニッケイ① アミノ① 興国インテック① 三協ホールディングス①
大昭和加工紙業① 日本製紙① マキヤ① しまむら① 東海三菱自動車販売①
雅也建築① ドンク① カインズ① 雄大① 顕正会① ユナイテッドアローズ①
TBC① ソシエワールド① 中澤歯科① ビッグ富士① ほかほか① もちづき①
safari① 高田企画① 軽種馬育成調教センター①

ア・イ. 進路目標と学力向上への取り組み

- 具体的な合格者数の目標設定は、生徒の意識向上や早期からの進路意識の醸成に効果があった。
- 分析会や進路検討会は計画通り実施されたが、担任によって目的の理解に差が見られたため、全体での意義の共有が今後の課題。
- 分析結果を生徒募集に活かすには、学習指導のあり方について教職員全体での協議が必要。

ウ．企業見学・就職支援

○職業講話を通じて、生徒の職業への関心が高まるなど、進路意識の向上が見られた。

○地域企業との連携が継続され、今年度も就職内定率 100% を達成した。

エ．大学との連携活動

○出前授業などの全体実施には年間計画と調整が必要であり課題も残る。

○今後は希望者を募り、夏休みに大学訪問を実施する案も検討中。

3．心豊かで健やかな体の育成のための取り組み

- (1) 部活動や学校行事を通して様々な人間関係を体験させることにより、思いやりの心、感謝の心、公共心などを育み、いじめを許さない環境づくりに努める。
- (2) 服装やマナーの徹底を図るとともに、元気でさわやかな挨拶ができる生徒を育てる。
- (3) 校内美化の意識を向上させ、清掃活動の徹底を図る。
- (4) 法令順守の精神を養うとともに、情報化社会に対応した倫理意識の高揚を図る。
- (5) 生徒が主体的に取り組み、共に喜びと感動を味わうことができるよう行事の充実を図る。
- (6) 学校行事、生徒会活動等を通してリーダーの育成を図るとともに、先輩・後輩の縦の連携を深める。
- (7) 安易に学校を休まない雰囲気づくりに努め、欠席の減少に努める。
- (8) 学校不適応等の問題や悩みを抱えた生徒の早期発見を図り、その支援に努める。
- (9) 研修等を通して、教育相談への理解を深め、校内支援体制の充実を図る。

◇ 今年度の重点 ◇

ア．欠席に対するコロナ禍からの意識改革に加え、丁寧な生徒支援で新たな不登校を生まない工夫をし、欠席の減少に努める

イ．スマートフォンやタブレットの適正な使用の徹底

ウ．部活動の在り方の検討（部活動充実チームの設置）

エ．従来の教育相談に加え、図書室での昼休み対応

【部活動加入率】 70.6% (R5) → 74.3% (R6)

【欠 席】 7,138 (R5) → 6,922 (R6) コロナ禍以前は 3,000～4,000 で推移

【遅 刻】 5,047 (R5) → 5,473 (R6) " 2,000～3,000 "

【教育相談】 スクールカウンセラーへの相談 生徒 61 人 保護者 13 人

ア．欠席対策と不登校予防

○担任や学年主任による家庭との連絡が活発になり、早期対応が可能になっている。

○一方で、コロナ禍以降、生徒の欠席や遅刻への抵抗感が低くなり、不登校傾向が顕著に。

○特に男子生徒のトラブルが多く、生徒同士での解決力の低下も課題。通信制高校の選択肢の増加も影響しており、学校単独では解決困難な面もある。

イ. スマホ・タブレットの適正使用

○スマホは生活に不可欠なツールだが、生徒指導上の多くの問題の原因にもなっている。

○問題は校外で発生し、学校に持ち込まれるケースが多い。啓発活動は継続しているが、目立った改善は見られていない。

○学校として粘り強く指導を継続していく必要があるが、社会全体での対策も求められる。

ウ. 部活動の在り方の検討

○中学の動向をふまえ、高校でも部活動の目的や方向性を再考する必要がある。

○多様な意見を持つ教員を中心に「部活動充実チーム」を発足し、教員の働き方や活動資金の課題も含め協議を開始している。

エ. 教育相談体制の拡充

○ＳＣや図書室での相談活動は評価できるが、対応しきれないほど悩む生徒や保護者が増加。

○今後はすべての教職員がカウンセリングマインドを持ち、対応力を高めることが求められる。

4. 地域連携・地域貢献・開かれた学校づくりのための取り組み

- (1) 保護者や保護者会役員との連携を密にするとともに、保護者会の活動等を充実させる。
- (2) 学校関係者評価委員会、評議員会、理事会等の意見を踏まえ、教育活動の改善と充実を図る
- (3) コミュニティ研究会を基軸に地域行事に積極的に参加するとともに、地域貢献などを通して、地域との共生を深める。

◇ 今年度の重点 ◇

ア. コミュニティ研究会だけでなく、様々な場面で生徒が活躍できる場の組織的な設定をし、生徒会活動との連携を図る

イ. 吹奏楽部、箏曲部、音楽部など、地域行事に積極的に参加し繋がりを深める

【音楽部】 岩北まつり LOVE NUMAZU MUSIC FAIR（ららぽーと沼津）

F D S 大感車祭（富士自動車学校）

【箏 曲】 富士第一小学校音楽鑑賞会

【吹奏楽】 鷹岡さくら祭り 富士交流センターサロンコンサート

西富士中学校区（小・中）音楽会 デイサービス松本音楽会 伝法小学校音楽会

かじま祭り 甲子祭り ららぽーと沼津 MUSIC FAIR 岳南電車祭り

【バトン】 かじま祭り 甲子祭り

【コミ研】 富士川河川敷清掃 小木の里七夕祭り エキキタテラス アート DE 富士
富士駅北部地区夏休み小学生支援事業 鈴川海岸清掃
かじま祭り×エキキタテラス 軽トラ市&エキキタテラス

ア. 生徒の活躍の場の拡充と生徒会との連携

- コミュニティ研究会は、清掃活動や地域行事、高校生模擬裁判、商品開発など多岐にわたる創造的な活動に取り組み、注目を集めている。
- 生徒会本部との連携はまだ十分ではないが、学年部や運動部との協力も見られ、今後は特活指導部が中心となり、組織的な連携体制の構築を目指す。

イ. 地域行事への参加と連携強化

- 吹奏楽部・箏曲部・音楽部は地域とのつながりを深める役割を果たしている。
- その他にも、バトントワリング部の祭典参加や高校生議会への参加など、生徒の地域での活躍の幅が広がっている。今年度コミュニティ研究会は、清掃活動や祭典等への協力活動、富士駅北口の活性化・まちづくり活動などに加え、学校新聞の活動（全国レベルで評価されている）、高校生模擬裁判活動、サイダー羊羹とお茶をコラボさせた新商品（茶イダー羹）の開発、インバウンドを取り込む新たなプロジェクトの提案等（静岡銀行に評価され実現化に向けて模索中）、テレビの特番や新聞等でも紹介されるような創造性豊かな活動に、活動の幅を広げている。

ウ. 生徒会本部を中心とした組織的な活動には、まだつながってはいないが、学年部への働きかけや、運動部の協力なども見られるようになってきていることは評価できる。今後は特活指導部が活動のコーディネートをし、組織としての動きができるようになることを目指したい。

エ. 音楽関係の部活動は、地域連携・地域貢献の役割を十分担っていると思われる。それ以外の活動では、たとえばバトントワリング部の地元の祭典への参加、富士市がおこなっている高校生議会への、本校生徒有志の参加など、生徒が学校外で活躍できるようになってきている。

5. 学校運営の円滑化・教員の資質向上のための取り組み

- (1) 学校運営の円滑化を目指し、会議日を月曜日に設定できるよう、教育課程の改善に取り組む。
- (2) 学年・学級経営の工夫・改善に努め、職員の連携を一層密にし、組織力の向上を図る。
- (3) 業務の ICT 化を促進し、校務の効率化を図るとともに報告・連絡・相談を徹底させる。
- (4) 学年便り、BLEND 等を活用して保護者との連携を図る。
- (5) 同窓会や保護者会との連携を深め、創立 100 周年記念事業の準備を進める。
- (6) 教職員の ICT 活用能力を高め、授業力の向上に積極的に取り組む。
- (7) キャリアステージに応じた計画的な研修を実施し、教職員の資質向上に努める。
- (8) 外部講師を招いての校内研修会、校外における研修会等への積極的な参加を促し、職員研修の充実を図る。
- (9) 服務規律の徹底を図るとともに、働きやすい職場環境づくりに努める。

◇ 今年度の重点 ◇

- ア. 校務支援システム「B L E N D」のさらなる活用（指導要録・調査書への拡大）
- イ. 創立１００周年記念事業のアウトラインの策定

ア. 校務支援システム「B L E N D」の活用拡大

○B L E N Dの導入により、業務の効率化が進み、教職員の利用もスムーズに定着している。

○一方で、業務の管理や業者対応などが特定の担当教員に集中し、負担が重くなっている現状が課題である。

イ. 創立１００周年記念事業の準備

○プロジェクトチーム内では真剣な議論が行われており、着実に計画が進行中。

○ただし、全職員を巻き込んだ盛り上がりにはまだ至っておらず、今後の課題。

○式典や施設整備以上に、生徒が「建学の精神」を理解し、地域に誇れる姿へと成長することが、１００周年の本質的な成果となるべきである。

6. 生徒募集のための取り組み

- (1) 広報活動を充実させ、保護者、地域、中学校、学習塾との協力体制を確立する。
- (2) 生徒受け入れのための環境の充実を図り、明るく楽しい学校づくりに努める。
- (3) 学校説明会をさらに充実させるとともに、本校の魅力のPRに職員一丸となって取り組む。
- (4) マス・メディアによる広報の開拓を図るとともに、ホームページの更新をきめ細かにを行い、常に新しい情報発信に努める。

◇ 今年度の重点 ◇

ア. 新しく生まれ変わる特進コースの魅力発信の強化

イ. 特進コースに特化した説明会の複数開催

ウ. 学校説明会・部活動見学会・体験入学等で特進・総合コースの在校生が中学生に直接アピールする機会を増加させる

エ. 「寺子屋フジミ」で、高校生が中学生に直接働きかける

オ. SNSを利用した広報活動の拡充でフォロワーを増加させる

R4	【特進】 88 名（120）	【総合】 239 名（280）	計 327 名（400）	充足率 81.8%
R5	【特進】 98 名（120）	【総合】 335 名（280）	計 433 名（400）	充足率 108.3%
R6	【特進】 80 名（120）	【総合】 287 名（280）	計 367 名（400）	充足率 92.8%
R7	【特進】 77 名（120）	【総合】 241 名（280）	計 318 名（400）	充足率 79.5%

ア～エ．特進コースの魅力発信とイベント実施

- 新カリキュラムや選抜方法の改革に合わせ、教育広報部を中心に説明会や体験イベントなどを通じて魅力発信を強化。中学生の反応は良好だったが、募集結果は昨年を下回り、悔しい結果となった。
- 中学生人口の減少だけでなく、地域に根強い公立・星陵志向も影響。今後はイベントの周知方法や実施内容のさらなる工夫が必要。
- 在校生や保護者の本校への評価は高く、リピーターも多いが、「富士見に行きたい」という風潮の形成には、全教職員の意識改革と一体的な取り組みが不可欠。

オ．SNSを活用した広報の拡充

- Facebook、Instagram、Xの運用ノウハウが向上し、リアルタイム発信が定着。
- 一方、ホームページ更新は専門的知識が必要なため、情報発信に遅れが出る場合がある。今後の改善点とされる。

(2) 財 務 面

「健全財政の堅持」の実現に努め、令和6年度決算では基本金組入前収支差額は168,666千円の黒字であった。基本金組入額を318,046千円計上したことにより、当年度収支差額は△149,380千円となった。前年度繰越収支差額2,309,399千円に当年度収支差額△149,380千円を加えた結果、翌年度繰越収支差額は2,160,019千円となり、経常収入(1,106,961千円)に対し1.95倍(昨年2.08倍)の黒字となった。

- 令和6年度当初の学園規模は下表のとおりです。(令和6年4月1日現在)

	富士見中学校	富士見高等学校	合 計
生 徒 数	30名	1,077名	1,107名
専 任 教 員 数	3名	43名	46名
特 命 講 師 数	1名	9名	10名
常 勤 講 師 数	2名	21名	23名
非 常 勤 講 師 数	3名	14名	17名
英 語 指 導 講 師 数	1名	2名	3名
スクールカウンセラー		1名	1名
専任事務職員数	1名	5名	6名
事務嘱託員数	—	4名	4名

- 人件費比率は、県及び全国平均をやや上回っている。人件費依存率については学則定員充足率が83.8%(高校：定員1,200名に対し1,077名 89.7%、中学：定員120名に対し30名25.0%)と低い数値であるため全国平均をかなり上回っている比率になったと考えられる。

	令和6年度 富 士 学 園	令和5年度 全国高校法人平均
人 件 費 比 率 (対経常収入)	63.4%	63.0%
人 件 費 依 存 率 (対生徒納付金)	156.2%	119.5%
補正人件費依存率 (対生徒納付金+経常費補助金)	69.0%	71.5%

- 第1号基本金 建設仮勘定の組み入れ額について

第1号基本金の建設仮勘定の組み入れ額として今年度は318,882千円を計上した。

(内訳：設計費25,410千円、調査費等472千円、工事費293,000千円)

令和7年度も下記組み入れ額を予定している。

令和7年度 監理業務費8,250千円、工事費(中間払)293,000千円 計301,250千円

※(令和7年度当初予算計上額295,000千円)